配 付 資 料

令和８(2026)年７月 31 日
環境文化部自然環境課
農林水産部農産課

特定外来生物クビアカツヤカミキリの被害が県内で初確認されました

岡山後楽園内及び周辺のサクラにおいて採集されたフラス（幼虫のフンと木くずが混ざったもの）が、特定外来生物クビアカツヤカミキリのものと確認されました。なお、同種による被害が県内で確認されたのは今回が初めてです。

記

１　発見までの経緯

７/21(火)・後楽園事務所職員が、園内のサクラにおいてクビアカツヤカミキリのものと疑われるフラスを確認
・県農林水産部、病害虫防除所職員が現地確認

７/23(木)・県及び関係機関による初動会議を開催、フラス発生箇所から半径約 500m の範囲内のサクラなどの樹木を目視点検（計５本のサクラにおいてクビアカツヤカミキリのものと疑われるフラスを確認）

７/24(金)・県及び専門家による現地調査
・採取したフラスを国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構に鑑定依頼

７/27(月)・鑑定の結果、フラスがクビアカツヤカミキリのものと確認

２　対応状況

・7/24（金）及び 7/27（月）に、拡散防止のためネットの巻き付け等を実施

３　今後の対応

・採取地点周辺において、関係機関と連携し、各宅にチラシを配布・回覧し、注意喚起を行うとともに、自宅の樹木を確認し、疑いがあれば通報するよう依頼
・採取地点周辺の公園等にあるサクラやウメ、モモなどの樹木を目視点検
・県ホームページにより、県民に対し改めてクビアカツヤカミキリの形状や生態等の特徴を紹介し、注意喚起を行うとともに、疑いがあれば通報するよう周知
・県内のモモ、ウメ等の生産者に対し、注意喚起を行うとともに、ほ場の確認点検と発見時の県等への通報について周知

※岡山後楽園での撮影を希望される場合は、事前に後楽園事務所（086-272-1166）までご連絡ください。

【裏面あり】

【参考】

●クビアカツヤカミキリ

・原産地は、中国や朝鮮半島、ベトナム北部など。貨物などの物資にまぎれて日本に侵入したと考えられる。

・全体的に光沢のある黒色で、胸部（クビの部分）が赤い。

・体長は 2.5～4cm（触覚は含まない、頭から尻までの長さ）

・幼虫がサクラやウメ、モモなどのバラ科の樹木の中に入り込み、木の内部を食い荒らす。加害された樹木は衰弱し、枯死するため、街路樹や果樹園での被害が懸念される。

・幼虫は樹木の内部で、２～３年かけて成長し、さなぎになる。成虫は５月末～８月に発生する。幼虫が入り込んだ樹木からは、うどん状のフラス（幼虫のフンと木くずが混ざったもの）が排出される。

・令和８年７月現在、２１都府県（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、岡山県、徳島県、香川県）で確認されている。

クビアカツヤカミキリの成虫（左がオス、右メス）



（写真：環境省提供）

クビアカツヤカミキリのフラス





（写真：栃木県提供）

フラスが確認されたサクラの位置



●：クビアカツヤカミキリの被害であることが確認された箇所

⊗：クビアカツヤカミキリの被害でないことを確認